

(様式第1号)

■ 会議録 □ 会議要旨

| | | | |
|-------|------------------------|--------|-----------------------|
| 会議の名称 | 令和5年度第3回芦屋市青少年問題協議会 | | |
| 日時 | 令和5年11月2日(木) 午後2時～午後4時 | | |
| 場所 | 芦屋市役所南館4階 第1委員会室 | | |
| 出席者 | 委員 | 山下 晃一 | (神戸大学大学院 教授) |
| | 委員 | 赤木 和重 | (神戸大学大学院 教授) |
| | 委員 | 入江 祝栄 | (芦屋市青少年育成愛護委員会 会長) |
| | 委員 | 松枝 泰生 | (芦屋市保護司会 会長) |
| | 委員 | 平井 恭子 | (芦屋市PTA協議会 副会長) |
| | 委員 | 足立 裕一 | (芦屋市自治会連合会 副会長) |
| | 委員 | 山田 佐知 | (芦屋市民生児童委員協議会 主任児童委員) |
| | 委員 | 藤田 賀容子 | (市民公募委員) |
| | 委員 | 大石 健二 | (芦屋市立潮見中学校 校長) |
| | 委員 | 谷 憲太郎 | (芦屋警察署生活安全課 課長) |
| 欠席者 | 委員 | 大川 啓子 | (芦屋市子ども会連絡協議会 常任理事) |
| | 委員 | 田嶋 修 | (芦屋市教育委員会 教育部社会教育室長) |
| 事務局 | 芦屋市教育長 | 福岡 憲助 | |
| | 青少年愛護センター所長 | 富田 泰起 | |
| | 青少年愛護センター所長代理 | 花尾 廣隆 | |
| | 青少年愛護センター所長補佐 | 中寫 健太 | |
| 会議の公開 | ■ 公開 | | |
| 傍聴者数 | 0人 | | |

1 会議次第

(1) 委嘱式

(2) 開会挨拶

(3) 新委員自己紹介

(4) 議事

第3期子ども・若者計画(令和7年度～)のアンケートについて(青少年愛護センター)

その他

2 提出資料

(1) 次第 令和5年度第3回芦屋市青少年問題協議会

(2) 資料1 計画策定スケジュール

(3) 資料2 アンケートの内容(案)

(4) 芦屋市こども・若者計画(概要版)

(5) 芦屋市こども・若者計画

3 審議内容

事務局花尾 ただ今から令和5年度第3回芦屋市青少年問題協議会を開催いたします。

私は議事に入るまでの進行させていただきます、青少年愛護センター花尾でございます。
よろしく申し上げます。

今回から任期が新しくなりましたので、最初に委嘱式を行いたいと思います。

福岡教育長から委嘱状を交付させていただきます。

教育長 (委嘱状交付)

事務局花尾 それでは開会の挨拶を、教育長お願いします。

教育長 (挨拶)

事務局花尾 教育長ありがとうございました。

本協議会は、地方青少年問題協議会法及び芦屋市青少年問題協議会条例に基づき開催するものであります。また本協議会の定数は、芦屋市青少年問題協議会条例第6条により、委員の半数となっております。本日は10名の委員が出席しておりますので、本協議会が成立していることをご報告いたします。

引き続き、今回から任期が新しくなりましたので、会長・副会長を選出したいと思えます。会長及び副会長は、委員の互選となっております。いかがいたしましょうか。

入江委員 山下委員は、学識経験者であり、前期まで副会長として会長を補佐して、この協議会の運営にご尽力くださった方で、この協議会の流れもよくご存知なので、素晴らしいファシリテーターとして会を運営していただけたらと思いますので、会長に推薦いたしたいと思えます。

また、赤木委員は学識経験者として、今期より就任され、会長の補佐としてたくさんの知識や情報を発信して、青少年問題について活発な議論の場を作ってくださいと思えますので、副会長に推薦させていただきますと思えます。

事務局花尾 ただいま推薦がありました。皆さんいかがでしょうか。

(一同拍手)

事務局花尾 それでは本協議会の会長を山下委員に、また副会長を赤木委員にお願いしたいと思えます。

(席の移動)

事務局花尾 それでは山下会長から、ご挨拶をお願いします。

山下会長 ただいま会長にご推挙いただきました山下です。この協議会は、毎回非常に中身のある議論がされていると思っております。それぞれの場で様々にご活動されている皆様方なので、日頃お考えのこととか、お気づきのこととかを出していただいて、それがその場では解決できたりはしないんですけども、それぞれの場にお持ち帰りいただいて、そこでまた新しい情報とか、新しい進め方を取り入れたり作られたりという、そういう大事な場かと思っております。

ぜひ前期に引き続き、今期でも、そういう会議ができればなと思っております。今回は同僚の赤木先生にもお越しいたげて、全幅の信頼を置いている方なので、補佐というよりは、どんどんいろいろおっしゃっていただければと思えます。

至らない点もあると思うんですけども、ぜひ活発な議論をお願いできればと思えます。

事務局花尾 ありがとうございました。それでは、初めての方もいらっしゃいますので、各委員の自己紹介をお願いしたいと思えます。

(各委員自己紹介)

事務局花尾 次に協議会の進め方について説明させていただきます。芦屋市情報公開条例第19条の規定に基づき、この協議会を原則公開したいと思えます。なお、非公開情報が含まれる場合

や公開することにより、公正または円滑な審議ができない場合は、非公開とすることができます。その際は、発言の前にお申し出ください。

本日は傍聴の方はいらっしゃいません。それでは議事に入らせていただきます。ここからは、山下会長に司会進行をお願いしたいと思います。

山下会長 それでは議事に入りたいと思います。本日、アンケートの内容について、皆様方からのご意見をいただきたいと思います。

最初に事務局から、今回初めてご参加の委員もおられますので、概要も含めてご説明をいただきたいと思います。もしご不明なところがあれば、遠慮なくおっしゃっていただければと思います。

それでは、事務局から、ご説明よろしくをお願いします。

事務局富田（協議会の説明）

山下会長 今、位置づけとか、進め方について事務局からご説明いただきました。ここまでで、確認しておきたいこととか、お尋ねになりたいこととかありましたら、どうぞお申し出いただければと思います。

進め方について、ヒアリングとワークショップが予定されていて、市民にご意向を伺うということですよ。その時に当事者の意見を直接聞くべきだということなので、何か動きが出るかなという気もしています。その点について事務局のお考えなりあるいは委員の皆さんのお考えもお伺いできればなと思いました。

まず事務局いかがでしょうか。

事務局富田 前回の5年前に、実施した例を挙げているんですけども、今はそういった計画を策定するときに、当事者の声、子どもの声を聞いてというのは、必要といわれております。（こども基本法(第3条第3号、同条第4号、第11条)）

今回のヒアリングとかワークショップでも、子どもの声を聞く機会を作りたいと考えております。どういう形であるのが良いのかは、またここでご相談しながらと思います。

二十歳のつどい実行委員会は、二十歳なので当事者です。加えて、若者の声を聞く機会は、取り入れたいと考えております。

山下会長 そうですね、政策形成の場に、声を取り入れるようになったんですよ。市の方針もそういうことになってるんで、ぜひ前向きにご検討いただければと思います。また継続でご検討いただくということで、次回のこの協議会でもし可能であればまた、議題として扱っていただければと思います。

赤木副会長 大きな流れの確認をさせていただきたいんですが、令和6年度中は、このアンケートの項目・実施・分析についての議論がメインになるのか、その見通しが1つ。

もう1つ、今日ではほぼアンケートの項目については、この協議会で、確定させたいということでもいいのか、見通しについて教えていただければと思います。

事務局富田 計画は5年ごとに作っているのですけれども、来年度、アンケートの分析、素案の作成は、コンサルタントにお願いしようと考えております。

アンケートの中身の分析や、報告を作っていくところは、協議会でご意見いただいた分を踏まえて、コンサルタントで作業を進めて、出来た部分を、また協議会でご確認いただく形になると思っています。

アンケートの結果については、分析したものをご覧いただきまして、どんなところが芦屋

市の課題かとか、それを次の計画に生かしていくかというところをご協議いただく形で考えています。

赤木副会長 今日アンケートを確定させる方向という理解でよろしいですか。

事務局富田 アンケートは、今日またご意見をいただきまして、修正するところは、修正をしていきたいと考えております。その上で、何らかの形で委員の皆さんにご確認いただいたものを、最終にできればと思っておりますので、今日、この場で確定させるところまでは考えておりません。

赤木副会長 分かりました。ありがとうございます。

松枝委員 アンケート結果をコンサルタントに依頼していろんな分析を行うということですが、私は保護司の立場で、法務省でアンケートを取ってどこかのコンサルタントがまとめたんだろうと思う資料を何回か見ることがあるんですが、どうしてもコンサルタントのやり方で機械的に進めていくだけで、教育に関しての専門家がそこにいるわけではない場合が多いので、表面的な流れだけで収まってることが多いように感じる場合があります。

例えば、犯罪・非行の話や、保護司の確保の話の中で、そういうコンサルタントにいろんなアンケートの分析依頼をしたものも、我々の目から見ると、これは意味ないと思うようなものもあるので、コンサルタントから出てきたものを審議する時間を十分に取っていただきたい思います。フィードバックする時間も、ある程度与えていただきたいと思っております。

もう一つ、計画策定で、説明会及びパブリックコメントが令和6年12月末から1月の初めになっているのですが、お役所休みの間に市民の皆さんから意見を集めるっていうタイミングとしてはいいのかもしれませんが。

ただ、市民の皆さんもやっぱりこの時期は忙しい時期なんで、「説明会しました。」「皆さんに見てもらいました。」「年明けには言いたいことあったら言ってね。」なんていうのは、ちょっと市民の意見を集めるのには不親切かなと思います。時期的にここを挟むのはいいのですが、もうちょっと期間を長くするか、その辺の配慮はしないと、皆さん言いたいことが言えなままに時期が過ぎてしまったということでは何の意味もないと思います。そこをご配慮をよろしく願いいたします。

事務局富田 最初のコンサルタントの話なんですけど、市でもいろんな計画を作っているんですが、コンサルタント任せになっているところがあるのではというのは、内部でも言われてまして、できるだけ職員が、自分らの手でするようにと言われてます。

今回のアンケートにつきましても、5年前は、コンサルタントにお願いしてたんですが、そこは予算がつかせませんでした。

来年度はコンサルタントにお願いしようと思ってるんですけども、丸投げになってしまうと、芦屋市の課題がちゃんと抽出できてないとか、という恐れもあります。そこはそうならないように、事務局が主導していきます。コンサルタントには、いろんなノウハウとか知識を持っていますので、そういったところは、コンサルタントにぜひ力を発揮していただきたいと考えています。

計画の本質的なところは、愛護センターで主導権を持ってやっていかないといけないと思います。そこは十分気をつけていきたいと思っております。

パブリックコメントの期間については、パブリックコメントの前後に議会に報告するので、

12月議会で報告して、パブリックコメントを実施して、3月議会でまた報告するという
ことでこの時期になっているんですが、できるだけ期間を長くしたりとか、周知もいろいろ工夫
したりとか、この期間の中で、できることは、気をつけてやっていきたいと思ひます。

山下会長 パブリックコメントで、どれぐらいの長さが適切なかわからないんですけども、年末
年始も挟んでるので、もうちょっと、期間があつた方が親切な気もしますね。

事務局富田 子ども・若者計画でいひますと、当事者の方はたくさんおられるんですけど、パブリッ
クコメントが寄せられにくい、関心を向けられにくい計画の方に入るかなと思ひます。

山下会長 なるべく働きかけて、いろいろご意見いただいた方が良ひです。途中でワークショップと
かが積極的に展開できれば、そこまで必要はないかもしれないんですけど、でもそこに参加
できなかった市民もおられるので、それなりのパブリックコメントの期間を取られた方が良
さそうですね。長めに期間を取っていただくということで、ご検討いただければと思ひます。

松枝委員さん、それでよろしいですか。

松枝委員 はい、お願ひします。

山下会長 それでは先に進んでアンケートの内容の方について、ご説明いただきたいと思ひます。

事務局富田 (アンケートの内容の説明)

山下会長 ちょっと長い設問になっています。内容について、尋ね方、言葉、読みやすい、読みにく
い、あるいは、分かりやすい、分かりにくいとかですね。少し細かくご意見いただいてもい
いかと思ひます。

それでは、全体を通して、今のアンケート案についてご意見ご質問ある方はお願ひします。

松枝委員 大きい話として一つ、中学生用の案ですが、基本的に一般用から設問を省いたりなどしな
がら作っているため、同じ文章になっています。

中学生用は15歳の中学生で、今回、新たに設問で取り上げられているヤングケアラーと
か、不登校で学校に行っていない子とかだったりすると、ものすごく国語力が弱いことがあり
ます。

保護司やっけても、そういう子が保護観察に来ると、ちょっとした文章を書かせようと
してもなかなか書けないし、読ませようとしてもよく理解できない。

そういう子たちに対してもアンケートを取ろうと思うのだったら、例えば問1で、「回答は
任意です」とか、問4で、家族の身体的介護、食事入浴まではいいんですが、「更衣」は、
きっと分からないと思ひます。

それから、問20の「誹謗中傷」は(悪口)と書いてあるので、これだったら悪口で理解
してくれるのかな。

その辺の見方ですね。中学生用のアンケート案は見直していただけませんか。そうしない
とこのままの文章だと、本当に拾い上げたい子たちの意見が拾えなくなる。

細々とした点でいくと、問4(一般)ですが、15歳から19歳ぐらいも対象に入っていて、
ここで高校生とか専門学校生とかあるんですが、学校に行っていない子で、たまにアルバイト
をするという子は、この中で「社会人」に○はしないと思うんですよ。とって高校生でも
ない。じゃあ「その他」に○してくれればいいんですが、その括弧の中にどう書くかとい
うのがあると思うんです。

そういう子たちの意見をはっきりさせようと思うのだったら、ここにもう一つ、「未就学の
未成年者」みたいな、就職もしていないという、項目が一つ欲しいと思ひます。

もう一つ、アルバイトとかパートをしている人は、「社会人」に入るのか、「専業主婦」とかなんかで、ちょっと仕事を持っているのか、ここ非常に曖昧なんです。

例えば、「社会人」のところに、「アルバイト・パートを含む仕事をしている人」とか、そうすると「専業主婦」は、完全に何も仕事をしない方、何かそういう線引きしないとこでもちょっとモヤモヤすると思いました。

それから、問11(一般)で、何をしているときが一番充実すると感じますか。今回は、ヤングケアラーの話もありますし、介護の話も出てくることから、介護をする人は、両方向の依存症になることがあるんです。となると、ここに「ケアをしている時」っていう項目があってもいいのかな。そこに○をする人っていうのは、ケアしてあげないと危ない。ケアしてあげないと危険という人を抽出するためには、そういう項目があってもいいと思うのです。ここはどちらかという、一般の人の楽しいことしか書いてないんです。

今回の話で、そういう介護をする人などの問題を対象にしようと思うのだったら、「ケアをしている時」、「介護をしている時」っていう項目があってもいいのかなと思います。

細かいのでいうと、問16(一般)、「ネット上で知り合った友人」、他のところは「インターネット、SNS上で知り合った友人」と書いてあります。ここは言葉を合わせた方がいいと思います。

問19(一般)、問13(中学生)で、「遊びや用事で週に4~5回外出する」、「遊びや用事で週に1~2回外出する」。「私、3回出ていくんだけど」、「私、毎日出て行くんだけど」という子がいる。こういうのは当てはまらないところがないようにしないとイケない。

大人は、多めだからということで4~5回に入れて良い、となるかもしれないんですが、この辺も、「遊びで週に4回以上出ていく」、「外出するのは3回以下」とか、きちっと分けた方がいいかなと感じました。

それから、問21(一般)「関係機関に相談したいとしますか」で、関係機関とは相談するところということですね。「公的な相談窓口があれば相談したいとしますか」と聞いた方が親切です。

お役所関係からすると関係機関と言えば、そういう役所の窓口とか、いろんな相談窓口を意味すると思うんですが、さっき福岡教育長がおっしゃった、わかりやすい言葉ではない、役所側の言葉だと。

同じようなことで問17(中学生)の5番、「子どもたちの育成活動」。少なくとも中学生にはこれは分かりません。何を聞きたいのか私もよく分かりません。書くのであればもうちょっと具体的に書いた方がいいかなと思います。

それから、問29(一般)と、問23(中学生)の9番、「子育てしながら働くのが困難なこと」。今回ヤングケアラーの話も出てますので、ここにも、「介護ケアをしながら働くことが困難なこと」という項目も含めていいと思うんですが、そういう話も入るべきじゃないかと思いました。

もう一つ、問14(一般)と問10(中学生)で、誰に相談しますかというところで、9番で「相談する人がいない」というのがありますが、これとは別に「誰にも相談するつもりがない」というのがあると思います。相談する人がいないというのは、したくてもできない。でもその反対側に相談するつもりなんてないんだよっていう人もいると思うので、そういう項目があってもいいのかなと思いました。

山下会長 松枝委員さんありがとうございます。いずれもすごい大事なポイントと思いました。私も気になっているところをおっしゃっていただいて、事務局いかがですか。

事務局富田 確かに、中学生用の表現が、一般用をそのままスライドさせているので、最初から中学生用に作るんだったら、表現が変わってくると思います。中学生用の質問項目とか、選択項目のところはもう少しわかりやすいように、変えさせていただきます。

ヤングケアラーに関する質問を、今回追加したんですけども、委員がおっしゃっていただいたようなところが、全然気がつけてなかったと思うので、こちらの方も直したり、追加したりさせていただきたいと思います。

山下会長 一番聞きたい人のご意見なので、その人のご意見を伺えるようにするのは、とても大事なことだと思いました。

大石委員とか、できれば現場の先生方から何かご協力得られると大変ありがたいですね。あるいは指導主事の方とかね。ちょっとご検討いただきたいと思います。

もし気になるところがあれば、とりあえず出しておいていただいて、事務局もそれを手がかりにして、再検討できます。何かお気づきになったら、気になるところどんどんおっしゃっていただきたいと思います。

赤木副会長 問19(一般)、問13(中学生)で、設問の意図がまだよくわからないんですが、具体的に言われないとわからない、伝わりにくい子ども達にとって、外出する回数が3回の場合はどっちなんやろうって延々と止まってしまいます。

あと、中学生は授業中にやるんですかね。それによってもだいぶ違うかなと思うんですが。

事務局花尾 やるのであれば、学活の時間か、放課後、終礼の時間が10分15分あるんで、その時にピンポイントで、タブレット出して、やってもらう可能性もあります。

赤木副会長 全体として、中学生は、私達が思ってもいないところで、ちょっと分からなかったり、つまずいたりすると思うので。教師とか、そうしたサポートで、その時にやってもらった方がいいんじゃないかなと思います。

週に外出する回数で、多分「3」がないところで延々と悩む。私達だったら、「3」はもう「4」にしようかみたいな感じですけど、そうはできないとは思う。

スマートフォンでQRコードを読み取ったんですが、お願い文書が、一般向けをそのままスライドさせてるんですかね。多分相当難しい。

「皆さまには、日頃より市政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。」「策定し、さまざまな子ども・若者の育成と問題解決に関する施策を推進しております。」とあるので、ここも中学生に届く言葉で。

これを見ると、私としては、「アンケートに答えたくない」を押して終了してしまいそうな気がします。

山下会長 大事なところですよ。ちなみに問1(一般・中学生)は、こういう設問がないとダメな感じなんです。

事務局富田 実は、ここも皆さんにご相談させていただこうと思っていたんです。事務局で付け足したんですが、アンケートに答えたくないって〇して終わった人も回答したことになったら、回答率が上がるかなという考えで入れてみたんです。ただ内部で協議しているときに、その人はここに〇はしてるけど、実際中身を回答してないので、それはそれでおかしいという指摘もありました。

山下会長 これは、基本的に無しの方がよくて、回収率にカウントしない方が良いと思います。答えたくない人はそのまま閉じて、答えたくありませんという意思表示をはっきりしてもらおうとか、そういうふうなことを答えた人がどれぐらいいるかっていうのを知りたいという意味では、設問外の項目として設けておいてもいいのかなという気はしたんです。

だから、やるとしたら問番号をつけずに、「もし回答したくない場合は、下の「閉じる」を押してください。」「回答していただける場合は、「次に進む」を押してください。」という形で、設問外の確認項目として設けておいてもいいのかなという気はします。

ただ、例えば、ちょっと今時間ないわって、閉じた人とか、そういう人をどうカウントするかの問題も出てきます。

赤木副会長 Google Form とかだったら、同じ端末でやるのであれば、途中からはじまるとか、2回はできないとかになっていたと思います。これは独自ですか。

事務局富田 LoGo フォームと言いまして、企業が提供しているプラットフォームで、電子申請などで、多くの自治体が使っています

山田委員 最初に、今回のアンケートは全部で何問です、というのがあったら、自分で判断し、都合の良いタイミングでできるかなって。

松枝委員 所要時間は10分ですとか。

山田委員 全部で何問ですとか、最初にそっちの方がいいような。

山下会長 それもちょっと加えておく必要ありますよね。

藤田委員 学校の授業の時に、先生が配られるのであれば、先生が何についてのアンケートか、説明されるのか説明されないのかで、大きく変わると思うんです。

やっぱり、何が目的かが分かった方が。タブレットだと、時間のこととか、見通しがあった方がいいのかなと思います。配られるプリントには何についてのアンケートとか、大まかに書いた方が見やすいのかなと思います。

あと、男女なんですけど、男女も、必ず必要なものですか。もし必要であれば、必要でいいんですけど、今の世の中に合わせて、「あなたが思う性別」っていうのも、結構フェジーに書いて、考慮してるようなんですけど、「あなたが思う」っていうのは、何の意味があるのかなって、逆に何か違和感が出てくるかなとも取れます。

事務局富田 まず、このアンケートの項目の前にもう1枚紙をつける予定にしてまして、何でこのアンケートするのかをいれさせてもらおうと思っています。そこでは、確かに中学生用は、文章を考えなアカンのと、全部で何問ですとか何分ですとかいうのも入れたいと思っています。

あと、性別のところは、国でも、アンケートを実施する上で性別が必要という場合は、性別を聞くことまではダメということではないです。今回のアンケートでも、集計する上で、男性・女性が必要ということで、性別も聞かせてもらおうと思っているところです。

あと、「あなたが思う性別」のところは、いろんなアンケートを見るんですけど、いろんな書き方があって、正直ちょっと事務局の方も悩んでいるところです。

一般用と中学生用は、同じ聞き方でいいとか、もうちょっと中学生用は、聞く方法があるんじゃないとか、悩んでいるところです。

松枝委員 「性別を教えてください。」の前に「あなたが思う」というのを先に書くからまずいのだと思います。「性別を教えてください。」で、その後、但し書きとして括弧をつければいい

んですよ。「性別を教えてください。(ただし、自分の身体と心が別だと感じる場合は、思う方の性別に○してください。)」という但し書きで書けば、わかりやすいと思うんですが、「あなたが思う」というのを最初に書いてしまうから引っかけってしまうのだと思います。

山下会長 そうですね。後半でつけた方が。しかも「あなた自身の性別」という限定がされていないので、「思う性別」とってなんやろうって、国語的に詰まる面もあるんで。ここは、「あなた自身の性別を教えてください。ただし、あなた自身が(考える・思う)性別で構いません。」とか、そのメッセージが伝わるのは、多分そういう子ども達のはずなので、そういう形で書いておけばいいかなと。

今、性自認、いわゆる性をどういうふうに分けて認識するかについては、小さいうちから配慮した方がいいという意見も結構あるんで、その性自認、性別を聞くというよりは、性に関する自認、自分がどう思っているかを聞くというスタイルに、せざるを得ないかなという気はします。

文案自体も、いろんなところで問題になることもあるんで、今、委員おっしゃっていただいて、慎重に検討しておいた方がいいところなので、大事なご指摘だと思います。

赤木副会長 最終的な調査の狙いにもよると思うんですが、この調査の狙いとして、男性と女性によって、何か考え方が違うとか、そういう結果を出したいのであれば、文言に配慮しつつ入れてもいいんですが、特に性別、データを取ったけど分析しないのであれば、あえて聞く必要はないかなと考えてます。

平井委員 ヤングケアラーで、誰を介護しているかで、父親・母親で性別が分かれているので、例えば中学生だったら、女の子が父親の介護をするのと、母親の介護をするのでは、ちょっと違うかなと思っていて、中学生の方は、性別を聞いてもいいのじゃないかなと思います。

赤木副会長 調査設計のねらいにもよると思います。

松枝委員 ただ、結果に男女の違いが出なかったとしたらそれも一つの結果で、もし男女の違いが出たら、そこには将来考えていかなきゃいけないことも出てくるので、一つの情報として、聞くべきだと私は思います。そこで違うという結果が出なかったからといって、それは意味がなかったということじゃなくて、それが男女の差がなかったという一つの結果だったという受け取り方をすればいいのだと思います。

山下会長 これは、前期でも話題になっていたところで、繰り返し議論していただくのは本当大事なことだなと思っていますが、対策を講じるときに、どうしても一つの対策をしても男女での配慮が必要な場合、そういうことがあるんじゃないかっていう話には、確かなっていただかなと思います。基礎的な調査なので、聞いておいて、把握しておくことはあってもいいかな、政策立案上の必要性があるというようなことで位置づけておいてもいいかなとは、その時思いました。

足立委員 まずこの協議会の目標、目的、このアンケートで何を参考にしようとしているのかを、再確認させてください。

山下会長 他の地域では、青少年育成と呼ばれる、国を挙げての取り組みがありまして、それぞれの都道府県と市町村、やっってくださいってことの一環で、設置されている協議会です。

芦屋市の場合は、青少年育成ではなくて、健全育成愛護って、ずっとおっしゃってるんです。これ一つの特徴かなと思うんですけど。

要は、芦屋の子どもと若者を健やかに育てていくための計画を作らないといけないのです。

その中で、何を一番の狙いにしましょうかとか、どこに重きを置いて、これから芦屋の政策をやっていきましょうかとか、地域とどんなふうに手を繋いでいきましょうかって。5年間かけて、こんなふうにしていきましょうという見通しを作らないといけないんですね。

その見通しを作るときに、何もなしではできないので、子ども達、若い人達に実情とか困っていることを聞きましょうというのが、このアンケートということになります。

事務局富田 アンケート自体は、国とかでもいろんなアンケートをされていて、そういったのも計画を作るときに使うんですけども、加えて芦屋市の子ども達とか若者が、今どんな状況かっていうのを、芦屋独自の課題とか、状況っていうのも把握したいということで、市民の方にもアンケートをさせていただいて、国がやってるアンケートと今回やろうとしてるアンケートと両方を見ながら、今後の芦屋市の子ども達のためにどんな施策が必要かとか、どんなところが足りてないかとかというのをあぶり出していって、それをもとに計画を作っていくという形で考えているところです。

足立委員 よく、分かりました。

平井委員 ネットの中学生用を確認してるんですけど、問番号がずれていたり、問番号が連続していないです。

事務局中罵 設問の回答によって、出てくる設問、出てこない設問があるんです。

平井委員 そういうことですね。でも、これは配られる訳じゃないですよ。全部タブレットだから、ここで連動しなくても大丈夫ですね。

あと、その子ども達って、海外の子たち向けに、英語バージョンとかアップしたりしますか。

事務局中罵 英語版は作ろうと思っています。

平井委員 それと、不登校については、その方の回答が重要になってくるのではないかなと。

事務局富田 そうですね、学校に行きづらいついとか、少し学校休んでいる子どもさんにつきましては、学校から回答の依頼はさせていただいて、タブレットを家に持って帰ってたりすることも多いので、そちらで回答いただけるのではないかなと考えています。

声掛けは、学校を通じて、学校行きにくい子とか休んでいる子にも声掛けをしていただく。逆にその子たちの声が聞きたいというところもございます。

平井委員 この「アンケートについて」という趣旨説明が中学生にはなかなか厳しいというか。

山下会長 難しいですね。もうちょっと柔らかく言った方がいいかもしれないですね。

事務局富田 一般用の趣旨説明からそのままなので、そこは配慮ができていないので、修正させていただきます。

藤田委員 中学生として見せていただいた時の私の意見です。まず問7(中学生)の「今、あなたが楽しい」という項目に、「何もしていない時」と同じようになるかもしれないけれど、「ひとりでいる時」というのも、子どもの心の中を探る一つの質問になるのかなと感じました。

あと、問9(中学生)の、「あなたの悩みや心配事は何かですか」という質問があるんですけど、「悩みや心配事はありますか」って、まず聞いてあげて欲しいなと思います。「もしあれば、あてはまるものに」の方が、入っていきやすいかなと感じました。

あと、問11(中学生)の「あなたは、何でも話せる友人がいますか」では、友だちがいないとか思う子は、友だちがいるかっていう言葉にすごく敏感なので、「何でも話せる人がいますか」ぐらいの大きく括った方が読みやすいかなって、本当に友だちがいない子は、いなく

てもいるって書いたりしてしまうんじゃないかなって感じました。

問16(中学生)の「アサガオ」を知っていますか」という設問に、「よく知っている」と「利用したことがある」が同じ設問に入ってしまったので、「よく知っている」「聞いたことはある」「全く知らない」が一つにまとまっていて、そのあとに、利用したことがあるか、分けて聞いた方が答えやすいんじゃないかなって感じました。

あと、「あなたと芦屋市について」、問19(中学生)ですが、「あなたは将来も芦屋市に住みたいと思っていますか。」っていうのは、芦屋が居心地いいかとか、好きだっていうのを聞きたいんだと思うんですけど、将来夢を持っている子ども達が、芦屋には住みたいけど、嫌いじゃないけど住めないということもあるので、何を探りたいのかがちょっと難しい質問ではないかなって感じました。

あと、問25(一般)、問19(中学生)の「芦屋市に若者向けにどんな場所があればよいと思いますか。」のところなんですけど、すごい細かい表現なんですけど、「大きな音を出してもよい場所」ということは大きな音を出してはダメだよって、今言われてるってことなんですけど、環境的に、誰かにダメって言われてるから出せないっていうような受け止め方になるので、何かポジティブな文章にしたいって、「大きな音で楽器や演奏ができる場所」とか能動的な表現の方がいいんじゃないかなって思っています。

山下会長 シンプルに、「大きな音を出せる場所」とかでもいい。

藤田委員 そうですね。そのほうが、高圧的にされている、そういうふうに指示されているっていうのが、中学生が引っかけたりするので、いい気持ちを聞きたいっていうときは、そっちの方が心を開いてくれるんじゃないかなと。「自分の悩み相談に乗ってくれる場所」ではなく、「自分の悩みを相談できる場所」。

あと、「友人と気軽にしゃべりできる場所」というんじゃなくて、「友人とおしゃべりが気軽にできる場所」。

国語の授業みたいなんですけど、子ども達って、日々そういう授業を受けているので、ニュアンスで、感じ方が違うんじゃないかなって読んでみました。

あと、最後の問29(一般)、問23(中学生)、日本社会の問題点についてなんですけど、ここに書かれてあることって、本当に日本に今ある問題で、取り上げられてもいるんですけど、教科書を読んでいる生徒達が、もし日本社会の問題点について、「今の日本社会について、あなたは、どのようなことが特に問題だと思いますか。」っていうことは、この下の問題が、全部、本当に日本全体にあるって、取れてしまってすごい悲惨な国のように、私は感じてしまったので、こんなニュアンスというか、「こういうことが日本では問題だとされています」とか、こういう問題も日本の中にあるんだよって、だけど、あなたは特にどれが問題だと思いますかっていうような、ちょっと聞き方を、本当にこれが今日本全体にあるんだとしたら、もう大変じゃないかって、不安になるし、将来に希望を持ってないんじゃないかなって感じました。

山下会長 最後のご指摘は、とっても大事なことで、事実としてはあると思うんですよ。だけど、希望を持てるような聞き方にして欲しいってことなんです。

藤田委員 そうなんです。子ども達がこの問題、僕はこれとこれが、私はこれとこれが、すごく問題だから、私を変えていってあげたいとか、将来大人になったら、こうするんだっていうような希望を、みんなに託してるんだよってというのが伝わるような設問にした方がいいんじゃないかな

いかなって、一回読んだときに、すごくそれを感じました。今から変えてくれるのは、多分中学生、高校生、もっと小さい子たちなので、その希望をつなげたいと思います。

山下会長 「これからの日本は、以下のような課題を解決していくことになっています。」とか、「していく必要があります。」とか、もうちょっと、ポジティブな言い方の方が。

藤田委員 それを変えてあげようって思うような。

山下会長 文章が長くなるけど、そういうことを書いた上で、あなたはどのようなことが問題と思うか、あるいは気になっているか。

藤田委員 そうですね。

山下会長 あるいは「解決したいと思って」、そうなるって解決するということが入ってくるんで、違うかもしれないですけど、そういうことでご配慮をいただきたいですね。

松枝委員 今のご意見の中で思ったのが、問11(中学生)で、「何でも話せる友人がいますか」っていうのを「話せる人がいますか」とかに変えた方がいいんじゃないかって話があったんですが、そうすると、その前の問10(中学生)で、「悩み事心配ごとがある場合、あなたは誰に相談しますか」と重なってしまうような気もするんです。

そこで、ここでは何を知りたいのか、「友達」ということで限定して聞きたいんだったら、このままの聞き方になるし、「友達」というのをわざわざ引っ張り出さなくていいんであれば、この問15(一般)と問11(中学生)のところはもうやめてしまえばいい。「友達」がいるかないかは非常に重要なことなので、問14(一般)や問10(中学生)があっても、それについてもうちょっと確認したいというんであれば別なんですよね。

藤田委員 そういうことを伝えたくて。本当に孤独なのか、孤独じゃないのかを聞き出したいんですけど、ちょっとこうかぶっているのと、表現と質問が。

山下会長 極論で、もう友達なんかおらんでもいいっていう考え方もあり得ますからね。他の人といろいろ繋がるから、それはそれでポジティブな選択かもしれないですから、ここは、友人がいることが正しいこととか、そういうニュアンスも入ってしまっている。

藤田委員 そうですね。中学生のいう友達って、やっぱり同年代をすぐにイメージしてしまうので、大人だと年齢差をイメージできるんですけど、特に中学生用の表現を考えた方がいいかな。

山下会長 前回もアンケートを行われているので、それとの比較みたいなのも念頭に置かれているのかなとは思んですけど。でも、問題数も多くなっていくので。

入江委員 問題数を減らすためにも問11番(中学生)を無くして、問10(中学生)で、「友人に○をされた方にお尋ねします。」にしたら、友人が悩みを相談する人なんだっていう人が、その友人を選ぶとか、問11(中学生)がなくなるかな。

事務局富田 確かに、問10(中学生)と問11(中学生)がかぶっている形になっているので、問11(中学生)を取って、次の問12(中学生)で、そういう形で友人っていうのが。

入江委員 友人が強調されずに済むかなと。

山田委員 幅広く友人ととる感覚もメッセージとして伝わる。

松枝委員 ただそうなるってですね、問11(中学生)を消してしまって、問10(中学生)の友人に○した人ってことになると、問10(中学生)で3つしか○つけられないんですよ。

お父さんお母さんに相談します。兄弟にも相談します。先輩にも相談します。友達にも相談します。順番で聞くと友達が最後だなんていっても、その友達も結構大事な友達だった可能性が、これはもう答えられなくなってしまうんで。

ここを3つにする必要があつて、問11(中学生)で友人というのを問12(中学生)も含めてしっかり聞こうと思うんだつたら、問11(中学生)は残さなければなりません。それか、問11(中学生)で、3つというのをやめて、あるだけ〇してくださいってということになります。

山田委員 友人にフォーカスしないといけないんですかね。

山下会長 それがいいという価値観が前提になっているんですよ。もちろん、子ども達の実情は知りたいんだけど、一方で我々年上の世代との繋がりっていうか、我々が彼らのことをどう理解していくかっていうことにもなるので、難しいところ。

松枝委員 ただ、問10(中学生)のところ質問されている項目、「父親・母親」は限定されるんですよ。「兄弟姉妹」も限定される。「学校の先生」も限定される。「相談機関」もある程度は絞られる。「友人」っていうのは幅広いですねっていう話からすると、問12(中学生)が必要になってくる。だから問12(中学生)の意味合いが、友人がいなきゃいけないという意味合いの質問と捉えずに、その友人をもうちょっと振り分け、細かく見るという意味であれば、別に質問してもおかしくない話です。

山下会長 これ逆に言つたら、「友人」って書いているのは、もうほぼ同年代の同じクラスの同級生というか、そういう設定にも前提にもなってそうですね。

山田委員 4番の「友人」のところ括弧して塾とか書いて〇してもらおうようにしたらどうですか。

山下会長 ちょっと人数増やして、塾の友人とか、クラスの友人とかですね。

山田委員 何かここに友人ってあまりにもフォーカスすると。

赤木委員 8番にも「友人」って書いてあります。

山田委員 つらい、ちょっとつらいかもしれません。

山下会長 すぐには結論出ないかもしれないんですけど、今、委員からお考えはたくさん示していただけたので、その考え方に基ついて、事務局で精査してもらっていいですか。

事務局富田 委員のおっしゃっていただいたところは、こちらも考えないといけないところかと思えます。

山下会長 伝統的な政策の枠組みでは、友人がいるかいないかかっていうのは結構重要なポイントなので、聞いてみたい気もするんですけど、そういう懸念も示されていますので、これが、逆にそれを無理強いするものになっていないかかっていうことも含めて、1回精査していただいて。

事務局富田 分かりました。

松枝委員 友人はフォーカスしてもいいと思うんです。というのが、社会問題で、子ども達の問題になっている、いじめとかのいろんな問題というのは、友達関係の中で起こっている問題が非常に多いから。友人にフォーカスするのは、いろんな意見あるかもしれないのですが、今の世間の問題からすると、友人については、ある程度フォーカスはしなきゃいけないと思います。ですから、この問12(中学生)のその結果の使い方にもよるんですけども、私の個人的意見としては、残した方がいいと思うんです。

山下会長 両立することも可能かもしれないので、友人を作らなきゃダメなんだよっていうメッセージにならないように、でも友人ということについてどう考えているか、それに基づいてどういうふうに回答するのかを確認するみたいな、そういうことで、ここでは合意ができそうなので、その合意に基づいて、事務局で何かいい知恵を出していただけるんじゃないかと。

藤田委員 友人には、本当に幅があるんだよって、例えばおじいちゃんでもいいし、幼稚園の子でもいいし、心を繋げるというか、そういうことでいいんだよっていうのを伝えていきたいなど。同級生とか、限られた枠じゃなくてっていう意味での友人はいてほしいし、誰がいますかっていうのを、すごく聞きたいし、親ではない、家族ではない、誰かの友人みたいな、難しいですよ。

山下会長 そういう意味では、問1 1 (中学生)と問1 2 (中学生)は結構適合してて、問1 2 (中学生)を広げて、詳しく、年代も聞きたいのであれば、年代を別途聞くか、あるいはそれを含ませつつ聞くかで、いけるような気もするので。

基本的な方針のご意見をたくさんいただけたと思うので、それに即して1回考えていただいて、また委員の皆さんに、メールとかでご提案いただいて、ご確認いただくというような運びにさせていただきますでしょうか。

平井委員 そうなった時に、一般との照らし合わせはしてないですが。

事務局富田 一般の方も15歳から対象なので、例えば中3の子とかも入ってくるので、中学生用を変えさせてもらったら、必要な部分は一般用も反映させていかなければというか。

赤木副会長 中学生の問2 2 (中学生)で、2点あるんですが、一つはこの項目は、不安だなんて思うのは、6番、7番、「自殺したい」とか「自傷行為」があるっていうのが、結構私達の研究では、こう聞くことでより自傷行為を誘発するっていうことが心理学では言われてまして、こういう研究するときにはかなり倫理的な配慮が必要で、これ、聞きっぱなしでフォローもないですよ。

自殺したいを○にした時に、どうするんだと、どうしても聞く必要があるということではなければ削除した方が、フォローができないんじゃないかなという気がして。このあたりはご配慮いただきたいっていうのが一つです。

もう一つ、今回の結果っていうのは、これからに生かすと同時に、これまでの政策がある種効果的かどうかだったかの評価にも関わると思うんです。具体的にいうと、「芦屋市子ども・若者計画 令和2年度～令和6年度」で言いますと、21ページです。若者相談センター「アサガオ」の認知度、皆さんほぼ全く知らないでしたけど、これも項目を同じように揃えれば、この5年間の中で、「アサガオ」に対する認知度がちょっと上がったのか、下がったのか分かります。

項目を変えてしまうと、比較ができないし、政策過程の評価にも繋がらないので、という気がすると、もう一つだけ、この調査では、例えば、30ページ、「自分に自信があるか」、「自分のことが好きか」っていうのは、これは青少年のウェルビーイングって、ここにも挙げられているように、状態を知る上ですごく大事な項目だと思うんですが、これも、前回は4件法で聞いてますよね。「はい」「どちらかといえばはい」「どちらかといえばいいえ」「いいえ」「無回答」なんですけど、問1 2 (中学生)でいうと「はい」か「いいえ」で答えるとなっていて、芦屋の青少年がこの5年間で自分のことをどう捉えているかを知るには、同じ項目にして比較すると、計画の策定と同時に、この5年間、結局どうやったのかっていうことでは、あまり変えない方が重要な項目は変えない方がいいのかなと。

山下会長 1点目が倫理的な配慮が必要なセンシティブな項目（自殺や自傷行為）。確かに繊細な項目ですよ。これがあるということと、2点目が回答形式と項目ですか。

赤木副会長 重要な項目や経年比較したい項目は変えない方が、変えてしまうとどう比較はできなく

なる。

山下会長 選択肢も含めてということですね。何か事務局今の段階で回答ありますか。

事務局富田 自殺とか自傷行為とか、これは必ずないといけないかという、決してそうではないと思っておりますので、削って問題なければ、フォローはできないので、無くす方向で考えたいと思います。

それで、前回は4個から選ぶ形にしている、簡素化もあるんですけど、逆に「はい」と「いいえ」だけだったら答えにくいっていうのも、協議している中ではありまして、4項目に、前と同じように戻すことを考えたいと思います。

山下会長 検討して、自殺とかの問題は、実は対策に大きく関わってくる可能性もあるんですけど、それも含めて、それでもなお、やっぱり入れない方がいいんじゃないかというご意見として、今、お聞きしたので、その方向で検討していただければと思います。難しいところですね。

山田委員 問22(中学生)の8番「身の回りのことは父親・母親にしてもらっている。」、主任児童委員をしていて、祖父母に面倒見てもらっているというパターンも多いので、これもプラスしていただいてもいいのかなど。

山下会長 そうですね、「家族の人に」みたいなことで。なるほど、これは設問の趣旨にもよりますが、父母に限る必要はあまりないような気もします。設問の意図も含めて、人によって、朝ご飯作ってもらってるんだったら〇ついちゃうから、中学生だと当たり前のように「はい」になるような。

前回の主な結果とかには掲載されていないので、そんなに意味のある項目じゃないかもしれないですね。

事務局富田 そうですね。そもそも、この項目がいるのかどうかです。

山下会長 この1番から10番に並んでいる全部について、精査した方がいいかもしれない。特に後半は。何のために聞いていることなのかという気がしなくもないですね。

ここは、さっきの倫理的な問題もありますので、それも含めて再検討いただくということにしましょうか。

今の子ども・若者の現状が、ちょっとしんどくなっているっていうのもあるし、それに対して心を砕いている方々が、今日お集まりいただいているんだなと思いました。今後の進め方ですが、実はこの協議会が、アンケートの実施までにもう1回というのは難しいスケジュールになっておりますので、1回事務局の方に修正していただいて、あと私と赤木副会長も含めて協議させていただいて、こんなんできましようかっていう形で、委員の皆さんに確認をとって、委員からOKとかここをちょっと直してっていうのを受けることにしましょうか。いいですか。

そんな形で、大枠では、事務局と正副会長に一任していただくというようなことで進めさせていただきます。よろしいですか。

各委員 はい。

山下会長 ありがとうございます。今お認めいただいた形で進めさせていただいて、もし十分に反映できていない場合には、またご意見をおっしゃっていただけたらと思います。そういう機会を事務局に設けていただきたいと思います。

議事、2つ目「その他」で何かありますか。

事務局富田 お知らせ一点ございます。教育長の挨拶でもございました。今月1日から15日までJ:COM

の「あしやトライアングル」で、不登校・ひきこもりの相談窓口、若者相談センター「アサガオ」についての特集を組んでいただいております。

山下会長 ぜひ皆さんご視聴いただければと思います。その他ありませんか。

それでは議事の方、これで終了しましたので、進行を事務局にお戻ししたいと思います。

事務局花尾 引き続き、閉会の挨拶を赤木副会長にお願いしたいと思います。

赤木副会長 初めてここに出席させていただいて、非常に驚くとともに勉強になりました。これだけ活発な議論と同時に、それだけでなく、それぞれの持ち場で青少年と関わった経験を生かしながらの議論で非常に勉強になるというか、充実したというかと思います。これからアンケートを、もう少しブラッシュアップしていくところまで一緒に知恵を出し合いながらできればと思います。今日はこれで閉会の挨拶とさせていただきます。

事務局花尾 皆様から頂いたご意見を参考に、会長・副会長と事務局でアンケート案を作成したいと思います。作成案については委員の皆様にご後日送信させていただきます。これにて、令和5年度第3回芦屋市青少年問題協議会を終了いたします。